

No Challenge, No Future
Hidehiko Oka



江別市立病院の経営状態はいったいどうなっているのか？

岡英彦 元市議会議員

□ 再び医師不足に

市立病院は、2006年に内科医が一斉退職する事態となり、不良債務が発生するなど経営状態が悪化、経営の立て直しを迫られました。再建にあたっては、専門にとらわれず幅広い対応ができる総合内科医を中心とした診療体制を築く方向を打ち出し、地域医療を学び総合内科医を目指す医師が集まる病院となっていきました。このような取り組みの結果、一時は病院再建のモデルと言われたこともありました。

しかしながら、2016年に総合内科の指導医が退職したことをきっかけに内科医の退職が続き、2016年に23人いた総合内科医は2019年1月には6人にまで減少する事態となっています。

医師の減少により2018年10月から50床の病床を休止しています。その結果、患者数が減少、病院収益も上がらないため、再び不良債務が発生するなど経営状態が急速に悪化しています。

□ 資金ショートを一時借り入れで対応

不良債務の発生は運転資金の不足を意味します。一時的に銀行から借り入れをすることで運転

資金を補っておりますが、年度末の一時借入金は2016年度7億3000万円、2017年度12億円、2018年度20億円(見込み)と増え続けています。

一時借入金は一年以内に返済する必要がありますが、病院の収益で賄う目途はついていません。

□ 今後の見通しは

2019年1月現在、市及び市立病院は、大学医局への働きかけ、医師募集サイトへの登録などによって医師を確保し、収益を上げることで赤字解消に取り組むという考え方を示しています。

これまでは大学医局に頼らず総合内科医を育てる病院として特色を打ち出してきましたが、とにかく医師を確保しなければいけないという2006年の状況に戻ってしまったと言えます。

ただし、2004年の臨床研修制度以降、大学医局が派遣できる医師の数は限られており、十分な医師数を確保できるか否かは、非常に不透明な状況です。また、仮に医師を確保できたとしても、一時借入金を返済できるだけの収益を上げるのが難しいことは、過去10年の病院収益の推移を見ても明らかです。

(注) 2006年に発生した不良債務についても病院収益によっては計画通り解消できず、市の一般会計から長期借入れすることで対応しました。この借入金を返済する前に新たな不良債務が発生してしまった状況です。

□ 代替プランの提示が必要

医師確保に全力を挙げることは理解できますが、医師確保が上手くいかず収益が上がらない場合、今後どこまで不良債務が膨らむのか、財政健全化の基準などを考慮すると市の一般会計はどこまでの負担に耐えられるのかなどの情報を速やかに市民に知らせなければなりません。

その上で、現在進めている取り組みが上手くいかない場合の代替プランを用意する必要があります。1998年の新病院開設以降、最初の数年を除き常に医師不足に見舞われており、また、病床利用率も常に厳しい状態が続いていることから、病院規模の縮小も選択肢として考慮する必要があります。

□ 将来的には直営での運営は難しい

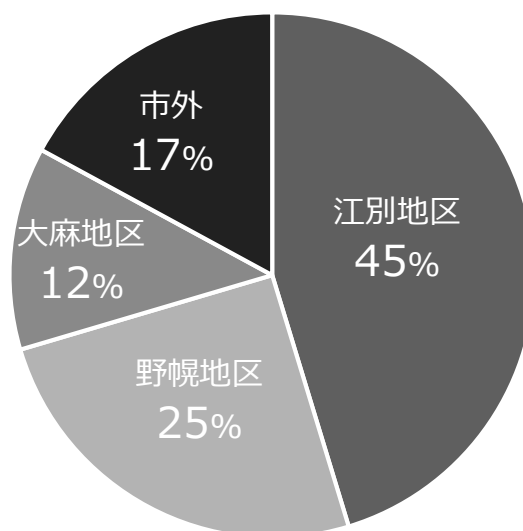
自治体病院は全国的に約6割が赤字となっており、その原因として、不採算部門の担い手となっていること、高い人件費比率、建築費などのコスト高などが言われています。

しかしながら、最も大きな原因は、自治体では病院経営の専門家を育てるのが難しいということが言えます。自治体病院の事務職員は数年のローテーションで病院事務を担っているに過ぎず、高度な専門知識が求められる病院経営を行うことは非常に難しい状況です。自治体側の理事者も病院経営について詳しいわけではなく、医療業界とは距離があります。

また、自治体病院としての直営での病院経営は、調整が必要となる利害関係者が多く、様々な手続きに時間を要するなど、素早い経営判断が求められる現在の病院経営にそぐわなくなっています。

市立病院も経営改善の取り組みと同時に経営形態見直しの動きも進めていく必要があります。

□ 市立病院地区別患者数



市立病院の2015年度から2017年度までの年間地区別患者数の平均を取り、その割合をグラフにしたものです(四捨五入しているため合計しても100%になりません)。患者数は入院と外来の合計で患者数の年間平均は約26万人になります。

江別地区の若草町に立地している市立病院から遠ざかり、医療機関の充実している札幌に近づくにつれ患者数が減っていることが分かります。また、南空知には大きな病院がないこともあり、南幌など市外からの患者数が大麻地区の患者数よりも多いことが分かります。

今後、全国的な医療データの整備が進んでいけば、市民がどの医療機関にかかっているのか、また、全体としてどのくらいの医療に関する需要があるのかといった情報の分析が期待でき、市立病院の経営判断はもとより、地域医療政策全体に有益なものとなると考えられます。

※ 岡英彦ブログでも市立病院問題を取り上げておりますので是非ご覧ください。

編集・発行 岡 英彦

〒069-0811 江別市錦町 2-3-102
電話：011-384-2705 FAX：050-3457-5095
メール：info@ebet.jp
ブログ：assemblyman.ebet.jp